
魔法少女リリカルなのは 絶対神になった少年

神夜 晶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 絶対神になった少年

【Nコード】

N4324Z

【作者名】

神夜 晶

【あらすじ】

ある世界に、全てから拒絶された少年が居た。その少年の名は、しんじろみこと神羅命。彼は、世界、運命、人間、その全てから拒絶された。

しかし、彼は生き抜いた……。自らが生きる希望の為に……。だが、世界は

それを許さなかった。また少年を絶望の淵に落とすのだった……。今、自らの生きる光と希望を探す為に新たな物語を紡ぐ。

初めに

初めまして！神夜晶と言います。

この小説が初めての投稿になります……。

ですので、駄文やぐだぐだに多々間違える所があるでしょう……
それでも、暖かい目で見てやって下さい……。

作者は仕事してますし、超亀更新なので究極に遅いですが
完結はさせたいと思ってますので

それでも良ければ、どうか見捨てないで下さい……。

この小説は、オリ主転生物でオリ主最強物です

苦手な方は回れ後ろを……><

この小説は、作者の願望と妄想で書かれたものです

ですので、過度の期待とかせすにお楽しみ頂けたら幸いです……。

それでわ……魔法少女リリカルなのは 絶対神になった少年

始まります！どうぞ！

プロローグ（前書き）

言い忘れてました・・・w

私は、原作知らないんです・・・

原作見てもから書くかも・・・

初めての文章・・・

緊張しますね・・・駄文ですが見てくれると嬉しいです！

でわ、どうぞ！

プロローグ

「……………ん、此処は……………？」

俺が気づいたら真っ白な空間に居た……………。
周りには何もなく、ただ真っ白な空間だった。

「何故、俺は此処に居るんだろう……………。」

「あ、起きましたか？」

不意に、後ろから声を掛けられて咄嗟に振り向くと其処には……………。
誰もが振り向くであろう絶世の美女が居た。

「あら？嬉しい事を言ってくれますね／＼／」

何故、頬を赤くしてるのだろうか……………。

この女は、誰だろう……………？

いや、今はそんな事どうでもいい、そう今は此処が

「何処なのか……………。と聞きたいんですね？」

何故、俺が考えてる事が分かったのだろうか……？
そもそも、何故俺はこんな所に居るのだろうか……。

「その問いには、私がお答えしましょう。」

「此処は、神王の間です。」

「ここには、私以外誰も入れません……。」

「そう、例え最高神だろうと創造神でも入れません。」

「でわ、何故俺は此処に居るのだろうか……？」

「神達が入れないのにどうして俺は入れるんだ？」

「それは、私が貴方の魂を呼んだからです。」

「魂を呼んだ……？つまり、俺は死んだと言う事か……？」

「……はい……」

その女は、悔しそうな顔で唇を思いつきり噛んでいる……。
何故、あんたがそんな顔するんだ……？

「それも含めてお話ししよう。
でわ、まず貴方は今までの事を覚えていますか……？」

「今までの事……。っ！！ 確か、俺は……。」

「はい……。」

貴方が住んで居た家に入っていた強盗に殺されました……。」

「……また俺は、守れなかったのかっ！！……。」

「……。」

女の顔を見ると悲しそうな目をしながらこちらを見ていた……。
こいつは、俺を哀れんでいるのか……？

「笑いたければ笑えば良いだろ……。」

何一つ守れないこんな俺を笑えばいいさ……。」

「……フルフル……。」

しかし、女は首を振る……。

なら、何故そんな顔を俺に向ける……？

「貴方の事は、ここで全て見てました……。
貴方が産まれたその時から……。」

こいつ何言ってるの……？

何で、俺何かを見るのか良く分からないな……。

「何故、貴方を見るかは、追々説明するとして……。
ここに呼んだ理由を言います。」

「理由……？そんなの、簡単だろ……。」

どうせ、俺という存在を消す為だろ……。」

さあ、早く消してくれ……。俺はもう生きたくない……。」

「消す為じゃありませんよ。」

私が此処に呼んだのは転生をしてもらうためです！

は……？こいつ何言ってるの……。」

もしかして、死んでテンプレ的なあれなのか……？

「そうですね、そんな感じと認識してもらって結構です。」

「でも、何故俺なんだ？他の奴でも良いだろうに……。」

「いえ、貴方でなければ駄目なのです……。
そう、貴方でなければ……。」

「さっき、俺の事を産まれた時から見てたって言ったな……。
何故、俺何だ……？」

「それは、貴方がもう一人の私だからです。」

「……………は？」

「こいつ、頭大丈夫か……？
病院行かせた方が良くないんじゃないか……？」

「私は頭がおかしくもないですし、別にふざけてる訳でもないです。」

「じゃあ、もう一人の俺ってどういう事なんだ……？」

「貴方は、この宇宙の星ぼしの中に地球と同じ星がある事をご存知
ですか……？」

「そんな、感じの事を聞いた事はあるけど……。」

「そうですね……。」

そこでは、貴方が住んでいた地球と全く同じなのです……。」

「ふむ……。それで……？」

何が言いたいのか……？」

「率直に言います……。そこで私は貴方と同じ者として生きてました。」

ですが、貴方の過去である、あのような事は起きてはいませんでした……。」

「な……。ん……。だ……。と……。」

俺は、絶句した、するしかなかった……。

あの忌々しい事が起きたのが俺だけだと……。

やはり、世界は俺を余程嫌いに見える……。

「ごめんなさい……。」

「何故、お前が謝る……。」

「私は、産まれた時は人間でした。ですが、私は死なずに今の神王へとなりました……。」

「つまり、俺だけが世界に嫌われ……お前は、愛されたという事か……。」

「はい……。貴方が不幸になったのを糧に私は、幸せになりました……。」

「あはは……。そうかそうか……。そういう事だったのか……。」

何故、俺があんな目にあつたのかこれで辻褄があつたよ……。でも、何故ミウは殺されたんだ……？

「それは、貴方と同じ心に生きる希望として生きていたからでしょう……。」

それを、見た地球は貴方と死ぬ様に運命を変えた……。」

「つまりは、全て地球が仕組んだ事か……。」

「はい……。」

確かに、貴方は何処の世界を通しても誰よりも不幸でしょう……。
ですが、貴方には此処から新たな人生が始まるのです！
これから、生きる光や希望を見つけて下さい……。」「

「もう、信じたくはないんだけどな……。」「

「信じたくないのは痛い程分かります……。
ですが、まずは私から信じてみてください……。
人間がお嫌いでしたら、信じなくても構いません。
でしたら、人間以外の者を信じてみてはどうでしょうか……。？」

「……………はあ……………分かったよ……………」

「じゃあ！」「

「ただし！もし、お前が裏切る様なら……
その時は、お前が俺を殺せ……」

……………良いな？」「

「ええ、分かりました。私は絶対に裏切りませんけど……………。
そうしなければ、信じないのでしたら約束しましょう。」「

「それで……………？俺は、転生するんだっけ……………？」「

「はい！行って貰う世界は魔法少女リリカルなのはです。」

「あー……。そんな名前のアニメ聞いた事あるけど……見た事はないんだよね……。」

「大丈夫ですよ。知識は上げるつもりですし力も上げますよ！」

「力……？戦う世界なのか……？」

「ええ、魔法がありますね……。
その世界の中には結構強い人達が居ます。
ですので、貴方には……チートを超えたチート転生者になってもらいます」

「……もう何も言つまい……。」

「それから、貴方にもう二つ大事な事を耳に通して頂きたい事があります……。」

「二つ……？」

「一つは、貴方が可愛がっていたミウちゃんの事です……。」

「……っ！」

ミウがどうかしたのか……？

「私の力でミウちゃんを私が住む星に来させました……。
ですので、ミウちゃんは前世の様にとは、いきませんが
魂は、ミウちゃんそのものですので、私が住む星に来れば
いつでも、会う事が可能です……。」

「そうか、ミウが……。」

頼む……ミウをどうか幸せにしてやってくれ……。」

「ええ！勿論ですよ」

「それで、二つ目は……？」

「実は、こつちの方が大事です……。
私は、人々の感情で神になったのです……。」

「それがどうかしたのか……？」

「分かりませんか……？」

もう一人の私が感情によって神になったという事は

貴方も何らかの形で神か神に近い存在になったという事です……。」

「……俺も神に……。」

「それを、貴方が目覚める前から調べた所

驚きの結果が出ました……。」

「それは、悪い意味でか……？それとも良い意味で……？」

「どちらかですね……。どちらから聞きたいですか……？」

ふむ、どちらからにしようか……？」

それにしても、俺が神か前では、ありえない事だらけだな……
よし……。」

「悪い方で頼む……。」

「分かりました……。」

貴方は死ぬ直前に力が欲しいと願いましたね？

その結果が裏目に出ました……。
貴方の願いが……貴方を森羅万象へと変えました……。」

「は……？」

森羅万象つてあの森羅万象……？」

「はい。その森羅万象で間違いないです……。
そして、後で心の中で森羅万象の事を思えば
森羅万象の間へと導かれる筈です……。
そこで、力を得る代わりに貴方は何か一つを誓わなければいけません。
ん。」

「誓う？何を……？」

「何かを得る為には何かを犠牲にしなければなりません……。
ですので、貴方が誓うのは心です……。」

「心……。」

「そうです。心の一つを捧げる事によって力を得ますが。
ですが、決して孤独を捧げてはなりません。
もし、捧げれば貴方は永遠に孤独を味わうでしょう……。
捧げた心を、もし思えば貴方という存在は消え死にます……。
そして、貴方に関わる全てが消えます……。」

「様は、捧げた心を思わなければ良いんだろ？
楽勝じゃね……？」

「いえ、甘く見てはいけません、絶対に思ってしまう筈です……。
ですので、普段思わない様な心の一つを捧げて下さい。」

「分かった……。それで？もう一つの方は？」

「もう一つは、貴方がどの様な神なのか分かりました。
貴方は……“絶対神”という神です。」

「絶対神……？聞いた事無いな……。」

「はい、絶対神というのは神達の間では神話になってる程ですから。
絶対神というのはですね……。
絶対的な存在、絶対的な強さを持つ事からそう言われています。」

「想いつきり中二臭いな……。」

「確かに、そう思うでしょうけど
絶対神になるという事は、私よりも神格が上なのですよ？」

「は……？だつてお前神王だろ……？」

「確かに、私は神王です。

今の所私以上の神は存在しません。

ですが、貴方というイレギュラーな神が現れました。

私が神王になって以来のイレギュラーですね……。」

「お前つてイレギュラーなの……？」

「はい、今まではゼウスやオーディーンなどの神達が全ての世界を治めてましたが

私というイレギュラーが現れた事によつて

世界を治めるのが私になり、私と満足に戦える相手は誰一人居ません。

良い勝負を出来る者が居るとすれば……

私に住む星に居る者達だけでしょうね。」

「へえ……そうなんだ……。」

「後は、貴方でしょうね。

貴方が真に力に目覚め、力を使いこなせれば

私と同じクラスに来れるでしょう……。」

私が居るクラスは誰一人辿り着いた者は居ません。

ですので、貴方が来るのを楽しみにしております」

「あ、そう……。」

それで、力くれるとか言ってたけど……何くれるの……？」

「そうでした、そうでした。

う〜ん……。基本的には、気、魔力、神力MAXにするんですが。

そこは、絶対神なので、元からMAXで“神不老不死”みたいですね。

ですので、貴方の好きな力で良いですよ」

……？今聞きなれない単語出て来た様な……。
聞き間違いか……。？よし、聞いてみるか……。

「なあ……。？神不老不死って何……？」

「神不老不死というのは、何が何でも死なないという事です。

普通の不老不死は頭が吹き飛んだり宇宙に出て塵も残さず燃えれば死ぬんですが……。それが死なくなつたと言えは分かりますよね？」

「ああ……。何をしても死なないって事が……。」

「はい それで、どの様な力が欲しいですか？
何でも言ってみて下さい！全て叶えられますよ
何せ、私は神王ですから！」

奴は、えっへん！とそのふくよかな胸を叩いた。
ふむ……。何にしようか……？

俺は、悩みに悩んだ拳句に数時間も掛けてしまったのは後から聞いた事だった……。

ブログ（後書き）

ぐだぐだと長くてすみません・・・

次回にブログの続きを書きます><

どうでしたか・・・？

駄文でしたし、所々間違っていないですか・・・？

ともかく、読んで頂き有り難うございました。

これからも宜しくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4324z/>

魔法少女リリカルなのは 絶対神になった少年

2011年12月15日23時50分発行